

# 佛心



初盆と盂蘭盆会

去年までのコロナ禍とは異なり、今年はおんらいんに加えて対面式でのお盆の法要を無事に勤めることができました。これもトロント仏教会のボードメンバーならびに多くの方のご支援とご協力があつてこそそのものだと思います。心より感謝申し上げます。

さて、一般世間では、人が亡くなることを「死して去る」と書いて「死去」と言います。しかし、私たち仏教徒はそのようにはいいません。仏教では人がいのちを終えることを、「往つて生まれる」と書いて「往生」と言います。何処へ行き、何に生まれるかといえます。仏様の極楽浄土へ往き、同じ仏様に生まれさせていただくという事です。これが私たちのいのちの終え方です。

二〇二二年九月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

なぜそのようなことが言えるか。それは私たちの仏様である阿弥陀如来は、いのちを終えたものを必ず浄土に連れて往き、仏にするおはたらきがあるからです。

浄土真宗では、その浄土に往くことも仏様になされていただくことも、全て阿弥陀如来の願いにより他力の賜りものであると聞かせていただきます。ですから、このお盆というのは、今は亡き大切な人を仏様として迎えさせていただく尊いご縁であるとも言えます。

その浄土に迎い入れてくれる阿弥陀如来という仏さまは、常に私たちと一緒にいてくださる仏さまです。私たちが嬉しいときも悲しいときもつらいときも、いつもそばで私たちを抱きとつてくださる仏様です。ですから、お盆はそのような仏様とお時間を過ごさせていただくご縁でもありました。

最近では、コロナの規制も緩和されて、新しい方がお寺へお参りして頂けることが増えました。その時によく尋ねられるのが、「阿弥陀という仏さまは、どのような仏さまですか？」という質問です。

阿弥陀という仏様は、大慈大悲の仏さまとも言われます。よく大慈悲と言われ、英語では *great compassion* と訳されます。しかし、その *compassion* の語源であるラテン語を調べてみますと「一緒に苦しむ」や「切実な同情する心」と出てきます。しかし、その「大慈大悲」の一字一文字を見てみますと「大慈」とは、衆生に樂を与えることであり、「大悲」とは、衆生の苦をとり除くことです。つまり、阿弥陀如来は私たちの苦しみに同情し寄り添うだけでなく、その苦しみをさへも無きものにして、樂を与えてくれる仏さまなのです。

このことを話しますと、その質問をされた方から「私たち人間にも慈悲のこころがあるが、それとはどう違うのか？」と問われました。とても良い質問です。ただ答えは「違う」です。

例えば、私たちはお金に困っている人を見つけては、募金をする事によってその人を助ける事が出来ます。しかし、物による支援というのは一時的なものも多く、本当の意味でのその人の苦しみの解決にはなりません。また、お金のモノではなく、こころの苦しみを抱えている人を見つけたとき、私たちに何かできないかと手を差し伸べ、同情のこころ

を示すことが出来ます。しかし、その人と全く同じ立場に立って、共に苦しめるかと問われれば、なかなか難しいものです。

私も僧侶という立場柄、こころの悩みを抱えている人と話すことが多々あります。しかし、そこで私ができることというのは、相手の言葉に静かに耳を傾けるぐらいです。その行為も一時的な安らぎを相手に与えるぐらいで、本来の意味で相手の苦しみを決して楽を与えているとは到底思えません。

もちろん慈悲のこころをもって日々の生活に精進することはとても大切なことです。しかし、仏さまの大慈悲のこころと私たち衆生の慈悲のこころは異なっているのです。

この阿弥陀如来の大慈悲や浄土のおはたらきは、お念仏によって私たちに届いているため、目に見えるものではありません。そのためか、よく「阿弥陀如来は本当にいるのですか？」と聞かれることがあります。答えは「有る」「無い」「分からない」の三つ以外にはありません。

もし、「無い」と言えば「やっぱり」となるでしょう。正直に「分からない」と答えると、「分からないのになぜ浄土真宗の僧侶なんですか」となります。そして、もし「ある」と答えると、必ず「どこにですか？見せてください」となります。

しかし、大慈悲や浄土のおはたらきは有るか無いかとたずねる事柄ではないのです。たずね方を間違えると正しい答えは出てきません。私たちは、どうも浄土という場所を物質的なもので捉えようとしがちです。しかし、これでは仏様の慈悲のこころや浄土の答えは出てきません。仏教は「こころ(感受性)」によって世界が変わると説きます。「有る無い」ではなく、「こころ」が開かれねば感じ得ることのできない、感性の世界に立っているのです。

そのことを少し分かりやすくするために、今年のある法要のお話をさせていただきます。今年の春にある方の枕経を勤めました。彼の病室に着いてすぐに読経をさせていただきました。す

ると、その読経の最後のお念仏で、彼が私のお念仏に合わせて口を動かしていたのです。この耳では、彼の声の音というものは聞こえませんでした。しかし、それは確かに念仏と一緒に称えてくれたのだと感じました。

数日後、その方のお葬儀が終わり、四十九日の法要を遺族からお願いされました。そのご家庭にはお仏壇があったためご自宅へ伺うと、その仏壇の香炉には灰がたくさん溜まっています。すると娘さんが、お父さんは毎朝起きると必ずお香を焚いて仏様にお仏飯をお供えして合掌していたと教えてくれました。確かに仏飯器も新品のような綺麗な金色ではありませんでした。

私もコロナ期間中に新しい香炉を購入して、香の灰を集めています。が、なかなかたまるものではありません。また、仏飯器も毎朝使っていますと、どうしても汚れてきます。だからこそ、そのご家庭の香炉と仏飯器を見るとき、改めて彼女のお父さんが毎朝、仏様へのお供え物を用意して心から念仏申していたこと伝わってきました。

読経後には娘さんが、「いままでなぜ父が毎朝、お仏飯とお香をお供えしていたか分からなかった。またなぜ念仏を申しているのかもよく分からなかった。しかし、今はその父

の気持ちに分かる気がします。」と言ってくれました。

それから数日後の100ヶ日法要を勤めたときは、そのお仏壇前には、お父さんの遺骨はもうお墓へ移されており、あるのは写真と法名だけでした。しかし、娘さんはいつ朝起きてはお仏飯をお供えて、出かけるときは「行ってきます。」とお仏壇に合掌していたそうです。

彼女にとっては、そこに仏さまとなった父が有るとか無いとかは重要でなかったのだと思います。そして、彼女が念仏申す身になったのは、お父さんが繋いだ彼女のための仏縁をご縁として阿弥陀如来の大慈悲を感じ取っていたからだと思うのです。

私たちは楽しみを共有する時間や場所は多く用意されています。また私たち自身が好んでそういった場所に伺います。しかし、悲しみや苦しみを共有する場所や時間は、あまりないような気がするのです。お盆法要は、その悲しみが私だけのものではないという真実と安心感を与えてくれます。そしてそれは同時に、大切な人との死別を「死して去る」としてではなく、「往き生まれる」世界があることを知らせてくれます。それは、仏となられた方をご縁として、この私自身がいま仏様

の大慈悲に出会うことのできた喜びを教えてください。ことでもあます。

このコロナ中、お寺も人数葬儀を延期された方や中止をされた方もいらっしゃると思います。しかし、皆抱く苦しみは各々違えど、7月の盂蘭盆会の法要をご縁に、皆一同に合掌し、仏縁を有難くいただきました。合掌を喜び、合掌させていただきました。合掌

浄土真宗本願寺派 トロント仏教会

駐在開教使 大内祐真



# 法要のお知らせ

ひがんえ

## 秋期彼岸会 (10月)

彼岸とは、生死の迷いを超えたさとりの世界である彼方(向こう)の岸のことで、彼岸会とは、迷いの世界である此方(こちら)の岸を離れて彼方の岸に至ることを願い、春分・秋分の日のお勤めする法要です。

春・秋の彼岸会は、インドや中国にはなく、日本で始められた仏教行事といわれ、各宗で修行をするのに好ましい時節としてお勤めされています。浄土真宗では、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めいたします。

トロント仏教会では、秋期彼岸会をin-personとzoomにて行います。

日時：2022年9月18日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会 / ZOOM

お勤めの後に彼岸会の法話がございます。どうぞご家族ご友人を誘ってお参り下さい。



## 永代経法要 (11月)

浄土真宗では、永代供養とはいわず、永代読経＝永代経といえます。亡き人のために永代経懇志を上げていただくことで、将来にわたって(永代に)念仏のみ教えを受け継がれていきます。永代経法要では、読経を通して今まで寺院を支えて下さった往生された方にも感謝を申し上げ、お勤めをさせていただきます。

日時：2021年11月20日(日曜日) 英語午前11時から 日本語午後1時から

場所：トロント仏教会 / Zoom

お勤めの後に永代経にちなんだ法話がございます。

どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。



## 10月11月の祥月法要

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

日時：2021年10月2日、11月6日(日曜日) 英語午前11時から 日本語午後1時から

場所：トロント仏教会 / Zoom

※Zoomでの参拝を希望される方は、その旨を<abc@abc.on.ca>までお知らせください。

寺院事務所からzoom linkを送らせていただきます。